



川上岳から望む御嶽山

〔岐阜森林管理署 馬瀬萩原森林事務所〕
 馬瀬萩原森林事務所は、日本三名泉として名高い温泉地、岐阜県下呂市に所在し、管轄する国有林は、県中東部にあたる飛騨川流域の十七箇所に点在し、面積は、国有林野六、二二〇鈎、官行造林地六五五鈎で、森林官、森林技術員、非常勤職員の三名で管理しています。



国有林と言えば現場、現場と言えば森林官！しかし、一般の方には余り馴染みがないと思います。
 そこで各地にある森林事務所や地域の特徴、森林官の仕事などを紹介していきます。



紅葉の清流「馬瀬川」

国有林ではこの流域を、「馬瀬溪流魚付き保全林」に指定し、地元とともに森林の保全に努めています。

管内の北には、古くから霊山として信仰されている二百名山の位山、北西部には女神伝説がまつわる三百名山の川上岳がそびえており、その二座の稜線は「天空の遊歩道」として知られています。
 また、管内を流れる馬瀬川は、平成の名水百選に選ばれ、上流域の豊かな自然に育まれた清流で、日本一アユが美味しい川として知られており、釣りの聖地として名客で賑わっています。



中間温帯針広混交林

さらに、下呂市南部の飛騨木曾川国定公園の一部に指定されている「中山七里」の渓谷には、天然性の中間温帯林が残されており、生息する動植物の種類が豊富で、林内の生物多様性が高いことから、大学などの研究機関において調査が進められています。

このような自然豊かな国有林に、近年ニホンジカが増加し、食害による森林の破壊が危惧されています。

当事務所では、森林整備や国有林の管理と共に、センサーカメラを設置し、ニホンジカ生息の把握を行い、くくり罠による捕獲を実施



中央が筆者
下呂市堂洞国有林の境界巡検にて

し、被害対策に向けた取組を行っています。
 また、異常気象による今まで経験したことのない災害が各地で発生していることから、災害に強い健全な森林づくりに向けて事業を展開していきたいと考えています。
 ■未来の担い手へのメッセージ
 森林づくりは、常に森林を観察し、必要な施策を継続していくことが重要だと考えています。残念ながら一世代では不可能で、最後まで見届けることができません。それ故に、私たちが先人から受け継いだものを次世代へ引き継ぐ必要があります。
 先人の思い入れを山から感じ取り、後世へと繋げてほしいと願っています。

受注してくださる民間事業者あつての国有林。そこで、国有林の植林や間伐などを行う森林・林業事業者からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。



上伊那猟友会 中川支部

(燻製工房もみじ代表)

木下 直美

(狩猟歴二十一年)



写真右が筆者

■事業の概要

発注者・長野県、市町村等

主に中川村の四徳地籍から人里民有林まで、一般猟他獣の被害があるとは有害駆除に出向きます。

南信森林管理署の「ついで見回り・通報」基本合意書で調印を行った上伊那猟友会中川支部の会員で「燻製工房もみじ」代表です。

■現場での役割、魅力

中川村は険しい山が多く巻狩り(猟場を四方から取り巻き獣を追いつめて捕らえる猟)ではうまく獲物を追い込み囲めないため、山の反対から頂上の上って待つことも多くあります。狩猟をはじめた頃は緊張の連続で葉っぱの落ちる音でもドキドキしました。

今でもこの緊張感と獲物を倒した時の達成感と安堵感はたまりません。

山に入ると立ち枯れの木をよく見るようになり、これが鹿の食害によるものだと知り、鹿を捕獲している私達も山を守る一助になっていると自負しています。

我が家には四匹の猟犬がいます。駆除した獣肉を利用して犬のエサ代を賄うことを目的に5年前の平成二十六年「燻製工房もみじ」を立ち上げました。

工房では、鹿肉のジャーキー

「鹿くん」やジビエ(シカ、イノシシ)の缶詰め、ソーセージを販売しています。



燻製工房もみじで販売しているジビエの缶詰など

ジムエブームに少なからず乗ることができて多くの皆様の助けをお借りして、徐々にではありますが多くのお客様に広がりを見せています。

■狩猟の世界に入ったきっかけ

夫が猟師で各地の射撃大会に参加していて見学しているうちに興味を持ち始めましたが、血を見るのもダメな私は夫にほぼ騙されて山に連れていかれ本格的にスタートしました。

険しい山の中を苦労して獲物を追いかける仲間達に、逃がしたら申し訳ない一心で引き金を引きました。

狩猟を始めた頃はなかなか地名も覚えられず迷惑をかけたことが、心温かな仲間達のおかげで猟師が続いています。

南信森林管理署の「ついで見回

り・通報」で鹿が捕獲された際には連絡をいただき、裏の山奥に出かけ何度も利用させていただき大変感謝しております。

■未来の担い手へのメッセージ

今、少しずつ女性のハンターが増えています。喜ばしいことです。が反対に若い男性が減っているのが残念です。

自然に向かい、命に向かって生きることの素晴らしさを分かち合っていたら素晴らしいことだと思います。

銃という命に関わる道具を使用して緊張の連続ですが、終わった後の仲間とのつながりは自分の必要性を感じることが出来る快感となるでしょう。興味のある方は是非仲間になりましょう。



狩猟の様子

受注してくださる民間事業者あつての国有林。そこで、国有林の林道や治山工事などを行う林業土木事業者からの投稿をもとに、頑張っている若者や女性技術者などを紹介していきます。

シリーズ

「林業土木業界からの便り」



株式会社 柳組

柳 雅聡

(二〇一九年入社)



擁壁材据え付け中の筆者

■事業の概要
請負事業：滝ヶ洞（小谷）林道
専用道新設工事

発注者：飛騨森林管理署

本工事は、飛騨市河合町滝ヶ洞

の国有林三二五二林班・三一五三林班において、林業専用道5百mを新設する工事です。基本的にはバックホーで山を削り、切土や盛土で林道を整備していきますが、適切な道幅の確保が難しい箇所には擁壁工やブロック積工を施し、水が多く出る箇所については水替工や暗渠工等を行うなど、作業環境の維持、山の機能保全を図りながら工事を行っています。



林道先線の状況（伐採後）

■現場での役割、魅力

私は、入社したばかりで現場経験も浅いため、現場監督補佐兼新米作業員として当工事に携わって

います。現場は飛騨の山奥であり、町では晴れの予報にも関わらず山では雷雨や土砂崩りなど、急な天候の変化に工程を左右されるため、現場を円滑に進める段取りだけではならず、臨機応変な対応も必要とされる大変な仕事です。しかし、飛騨の森林に関する仕事は、飛騨の自然だけでなく、下流域に住む人々を守ることもつながっているため、やりがいがあると大きい仕事だと感じています。

■林業土木の世界に

入ったきっかけ

前職は、建設コンサルタントで道路・交通の計画に携わっていましたが、私が生まれ育った飛騨に土木の面から何かしら貢献できることはないか、という思いが強くなりました。これまでデスクワークしかしてこなかった人間が、今では飛騨の豊かで、時に厳しい自然環境を相手に仕事をしており、毎日が新しい発見ばかりで、充実した日々を過ごしています。

■未来の担い手へのメッセージ

建設業全体で高齢化や少子化に

よる人手・なり手不足が課題とされていますが、この課題に対し、地方部においても新しい機械・技術の導入や職場環境の改善等により、若者が働きやすい環境が整備されてきています。

「自然が大好き！」「新しいことにチャレンジしたい！」「これからの地方を若者の力で良くしたい！」という方には、最適なフィールドがありますので、若い方、ぜひ共に地方の建設業をより良いものにしていきましょう！



本現場で、これまでに整備した林道